

# From New York

Vol.14

世界の街の“今”を、現地からお届けします

文/プレミアムワイン株式会社 (<http://www.premiumwine.co.jp>)

ここ最近のアメリカのメディアは、ニューヨークのホテルで女性従業員に性的暴行を加えた容疑で逮捕されたIMF（国際通貨基金）の専務理事、ドミニク・ストロス・カーン氏のニュースで持ちきりでした。

この事件は、フランスとアメリカの、セックスと政治と法律の考え方の違いを浮き彫りにし、両国の間に深い亀裂を作りました。ストロス・カーン氏の逮捕劇は、まるでハリウッド映画を見ているようだったと目撃者が語っていました。ニューヨークのJFK国際空港から飛び立とうとしている離陸寸前の飛行機内に警察官が立ち入り、ストロス・カーン氏にいきなり手錠をかけたのです。ニューヨーク市当局は手錠姿をメディアに公開し、彼を犯罪者として報道陣の前に連行しました。

推定無罪を尊重するフランスでは、この報道に対して強い批判の声が高まり、アメリカの非人道的な行為に対し、強い反発の声があがりました。フランスでは有罪が確定するまでは、手錠姿の写真を公開せず、公の場に出すことも禁じられています。

アメリカでは弁護士がメディアに向けて発言し、法廷の争いを放映します。また、スキャンダルに対して厳しく、ホワイトハウスのインターンとの不適切な関係を持ったことで、ビル・クリントン前大統領を弾劾裁判の危機にまで責め立てた国です。隠し子スキャンダルが発覚した前カリフォルニア州知事、アーノルド・シュワルツェネッガー氏が支払う慰謝料の莫大な金額を見てもわかると思います。

一方、フランスは女性関係の問題には寛大な国。隣国イタリアでも、ベルルスコーニ首相のさまざまな女性問題の容疑が明るみに出ていますが、見事に切り抜け、「人生と女性を愛する」と平然と言っているほどのです。

実際には強姦未遂だった、このストロス・カーン事件ですが、NYPD（ニューヨーク警察）が実際の強姦事件より速やかに動いた背景には、政治的目的論みがあると考えられています。

フランス次期大統領の職を脅かされているサルコジ大統領が仕組んだものか、IMFのトップの席を狙うアメリカ側なのか……。アメリカ国民もフランス国民も、この事件の結末に関してはタブロイド紙から目が離せず、大いに関心を寄せているようです。

